

# 沖縄知事選－基地反対の民意揺るがず

## 不屈にチャレンジし続ける！ 『伊波洋一氏さっばいと！』



全国の注目を浴びた沖縄県知事選。結果は、仲井真弘多氏が得票率52%で再選。私たちの応援した伊波洋一前宜野湾市長は、得票率46%で残念ながら惜敗しました。

選挙の最大の争点「普天間基地の移設」問題であったのは言うまでもありません。前回の知事選で「辺野古への移設」を公約した仲井真氏の再選で、政府内に「安堵感が広がった」と報じられました。

しかし、その安堵は時期尚早というものでしょう。なぜなら、今回の仲井真氏の公約は「県外移設」（伊波氏は「国外移設」）。実に98%の投票者が、県内移設で「ない」点を評価したと言えるからです。

沖縄県では、昨年の参院選で「辺野古移転」を掲げた候補が全員落選しました。当選したのは「国外または県外移設」を公約した候補ばかり。今年の1月には、辺野古を抱える名護市の市長選で「県内移設反対」を掲げる新人稲嶺氏が、「辺野古移転」を進めてきた現職を破りました。4月には、知事と全市町村長が参加する県民大集会で「普天間基地撤去・県内移設反対」が決議され、9月の名護市議選では「辺野古への基地受け入れ反対」派が圧勝しました。

一連の経過に示された「普天間返還・県内移設ノー」の民意が、今回の知事選でもはっきりと示されたことになります。新知事は政府との交渉に当たって、本音がどうあれ、98%の民意と自らの公約を尊重する立場に立たされたと言えるでしょう。

(中山熙之)

### ・開票結果

当 仲井真弘多氏	335,708票
伊波洋一氏	297,082票
金城竜郎氏	13,116票

・投票率は60・88%（前回：64・54%）

今回の沖縄知事選において、各平和の会および個人の皆様から多くのカンパを寄せていただきました。心から感謝いたします。

### 宜野湾市長選で安里氏が当選

米軍の普天間基地がある沖縄県宜野湾市で市長選が28日おこなわれ、新人の前副市長・安里猛〔あさとたけし〕氏(58)（無所属＝共産・社民推薦）が、新人の前衆院議員・安次富修氏

(54)（無所属＝自民・公明推薦）を破り初当選しました。投票率は67.13%（前回60.39%）でした。

知事選に立候補した伊波洋一氏の辞職に伴う選挙で、両陣営が知事選と連動させた選挙戦を展開。革新候補として後継指名された安里氏は、伊波氏と同様に名護市辺野古への移設に反対し、グアム移転を主張していました。

なお、宜野湾市では、知事選でも革新候補伊波氏の得票（2万4千10票）が、保守派の候補仲井真氏の得票（2万1千412）を上回っていました。



【「50代、60代の方々  
は子、孫の代まで基地を残  
したくないという思いがと  
ても強いと思った。」と語  
る伊波氏】



【革新候補として後継指名  
された安里氏は、伊波氏と  
同様に名護市辺野古への移  
設に反対し、グアム移転を  
主張。】

## 『北朝鮮による韓国・延坪島への攻撃について』

北朝鮮は11月23日、韓国の延坪（ヨンピョン）島に対して砲撃を行ないました。韓国軍との間で交戦状態となり、韓国軍兵士だけでなく、住民にまで死傷者がでました。

民間人が居住する島への無差別な砲撃は、許すことのできない蛮行です。これは、朝鮮戦争の休戦協定にも、国連憲章にも、北朝鮮自身が当事者である南北間の諸合意にも反する無法な行為です。

日本平和委員会は24日に「北朝鮮による韓国・延坪島攻撃に抗議する」を発表し抗議、26日には衆参両院で「北朝鮮による韓国・大延坪島砲撃に関する決議」を採択、また各政党・平和団体は、それぞれ北朝鮮の無法な攻撃に対し抗議の声を挙げています。

われわれは、北朝鮮に対し、無謀な軍事的挑発行動を非難するとともに、攻撃とそれによる被害の責任をとること、国際ルールを守り、挑発的な行動を繰り返さないことを厳しく求めるものです。

同時に、韓国をはじめ日本政府・関係各国が、事態をさらに軍事的にエスカレートさせず、外交的・政治的な努力によって解決するために全力をあげることを求めます。

2010年11月27日 茨城県平和委員会

### 【前号 NO.580 の記事の訂正】

新入会員のご紹介で、下記の間違ひがありました。訂正してお詫びいたします。

(誤) 掛 弘 さん (小美玉市)

(正) 武 弘 さん (小美玉市)

### 平和新聞

2010年12月5日(日曜日)

1943号 (毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会  
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館  
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

### 平和かわら版

平和新聞茨城版 No. 581  
2010.12/5

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281  
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

# ブラジルで初の女性大統領誕生

土浦平和の会 近藤輝男



## 【ジルマ候補のポスターを前に】



5年ぶりに訪れた初夏のブラジルは、大統領選挙の真只中でした。ブラジルでは大統領の任期が憲法で2期8年と決められています。03年から8年続いた中道左派のルラ大統領のあと誰が新大統領になるか、国内外からも注目された選挙でした。9月に始まった大統領選挙は10月3日の投票では過半数を制した候補がいなかったため上位2人による決選投票が10月31日となつて、約2ヶ月にわたる熱い選挙戦がブラジル全土で繰り広げられました。

決選投票はルラ大統領の後継者として与党・労働者党（PT）からの女性候補ジルマ・ルセウ氏と前サンパウロ州知事で野党・ブラジル社会民主党（PSDB）のジョセ・セラ氏の争いとなりました。結果は世論調査の予想通りルラ大統領の全面的な支援を受けたジルマ氏（62歳）が56%の得票率で勝利し、ブラジル初の女性大統領が誕生しました。（正式には2011年1月1日に就任）貧困層対策や住宅、医療、教育など両者の政策の違いはそれほどないと言われていましたが、民営化や規制緩和については、セラ氏は推進の立場にあったようです。当選したジルマ氏はルラ政権下では官房長官を務め、軍事政権下時代には民主化の闘士として活動し、70年から3年間投獄された経験もあります。

ブラジルの選挙戦はテレビを通しての討論、政見放送や集会、ポスター、ステッカー、ビラ等日本の選挙とほぼ同じです。顔写真入りの大きなポスターや看板を塀や窓に貼り付けた家や候補者のステッカーやワッペンを貼り、旗を掲げて走る車など至る所で見かけました。なかにはワッペンを顔や衣服に張りめぐらす人もいました。大きな公園や交差点では運動員がカラフルな旗を振りかざし、候補者名の入った曲を歌って踊りながら、車や歩行者にステッカー、チラシ、小旗などを配るなど、にぎやかで陽気に、明るくという点はいかにもラテン系といったところです。また、リオやサンパウロなど大きな街での候補者を迎えるパレードや集会での熱狂ぶりもブラジルそのものです。

ブラジルは、与野党問わず国会議員から地方議員に至るまで汚職や地位利用、金銭疑惑は後をたたず、国民の政治や政治家に対する不信感は根強いものがあって、「誰がなっても同じだ」、「政治や選挙には関心がない」という人も結構いました。しかし、ブラジルは18歳から投票が義務づけられ、理由なくして投票を怠ると罰則が科せられたため誰もが選挙や政治に係わらずにはおられません。

この8年間、ルラ政権は国内的にはボルサ・ファミリア計画など貧困層への所得支援プログラムや住宅の供給、毎年の最低賃金の引き上(2010年510リアル(約2万5千円))など貧困層や労働者への手厚い社会保障政策を実施してきました。「ルラの貧困対策は税金のバラまきだ」、「人気取りで、選挙目当てだ」という人もいましたが、「この8年間ブラジルはずいぶん景気が良くなった」、「生活に余裕が出てきた」という声も多く聞かれました。実際、5年前と比べ、街並みや走る車を見ても、また、リゾート地での高級別荘マンションの建設ブームなどから、この国の経済の好調さを伺うことが出来ました。

ルラ政権の貧困層対策は個人消費を促し、内需中心のブラジル経済に大きく貢献し、金融危機の影響を最小限に止めた国として高く評価されています。外交面でも米国の言いなりにならず、途上国や非同盟諸国との関係強化や中南米地域共同体づくりの推進役、まとめ役として、また、14年のサッカーワールドカップに続き16年のオリンピックを誘致するなどブラジルの存在感を世界に示しています。ルラ大統領の支持率が、80%以上という驚異的な数字も納得できます。

新しい大統領のもとで、米国の一国覇権主義を拒否し、弱肉強食の新自由主義路線から飢餓や貧困の克服、自主・民主の国づくりを目指す中南米諸国変革の流れの一翼を担うブラジルが、さらにその流れを加速させるとともに、ブラジルが今年5月の国連NTP再検討会議で核廃絶に向けて積極的な役割を演じたように、核廃絶や世界の平和に貢献することを大いに期待するところです。

## 12月期会費・組代の納入のお願い

いつもお世話になり、感謝申し上げます。  
12月は年末のつきですので、出来るだけ早めにご送金下さるようお願いいたします。

## 「代表理事・常任理事はこんな人」

第9回目は、常任理事・風間 道夫さんです。



私が平和委員会と関わりを持つようになったのは、伊達さんの「茨城の平和運動を立て直すから鹿行で力を貸してくれよ。」の一言でした。私が組合活動を始めたのは、70年代の戦争アニメと現実の世界が理解できなかった当時3歳の長男が「戦争が始まったら怖くて寝られない・・・」と、夜泣きながら階段を下りてきた様子を見て、「こんな小さい子に不安を与える世の中は何なんだ。」と感じたことがきっかけですから、平和のためにという伊達さんの勧めを断る理由はありませんでした。

以来17年前から鹿行の平和委員会集金係をしています。地域の皆さんに、妻と二人で沖縄の平和大会に参加させていただく機会をつくってもらい、現地の方から「あなた方の知っている事はほんの一部にすぎない、現実はずっと酷かった、自分の子供が雑巾のようになってもまだ壁に打ち付けていた親も居たんだ。まだ話せない事ばかりだ。」と聞いたときには、言葉もありませんでした。

職場で管理職になっても平和運動は止めませんでした。3月で60歳定年ですが、平和運動はこれからも沖縄から米軍を追い出し、平和が訪れるまで・・・。

## 平和こそしあわせのみなもと

- ・ おおいに学びましょう！
- ・ 「内原・友部平和の会」 学習会のお知らせ

日時：12月18日(土)午後1時30分～4時

場所：笠間市大田町436「唯信寺」本堂

内容：①『筑波海軍航空隊で行われていたこと』

講師：南 秀利さん(郷土の近現代史家)

② 唯信寺ご住職・宍戸 将さんに、平和にたいする思いを語っていただきます。

☆どなたでもご参加下さい。

連絡先：川井 (Tel) 0296-78-3365 谷津 (Tel) 029-259-3810